

劇団、本谷有希子

第15回公演

甘え amaze



〔作・演出〕本谷有希子

〔出演〕小池栄子 水橋研二 安藤玉恵 広岡由里子 大河内 浩

2010年5月10日(月)～6月6日(日) @ 青山円形劇場

文壇と劇団を股にかける本谷有希子が主宰する「劇団、本谷有希子」。この度、第15回公演『甘え』を、2010年5月10日(月)～6月6日(日)の約1ヶ月間に渡り、青山円形劇場にて上演いたします。

劇団旗揚げ10周年、本谷自身も**生誕30周年**となる今年の本公演は、映画『乱暴と待機』(原作:本谷有希子)にも出演し、タレントとしても俳優としても各方面で賞賛を浴びる**小池栄子**を主演に迎え、『不道德』をテーマに突き進む渾身の一作となります。

映画やCMのみならず、白井晃演出『リア』など舞台での活躍も目覚ましい、**水橋研二**。劇団ポツドールの看板女優として活躍し、映画やドラマでの好演も輝る、**安藤玉恵**。岸田賞受賞作『幸せ最高ありがとうマジで!』でのたくましくも女性らしい母親役が記憶に残る、**広岡由里子**。そして、舞台上での存在感と好演に本谷が一目惚れして出演をオファーしたという、**大河内浩**。

2004年『腑抜けども、悲しみの愛を見せろ』、2006年『遭難』に次ぐ「円形劇場三部作」となる本公演。不道德を肯定した先にあるものは…? **密度・濃度ともに高まる青山円形劇場にて本谷有希子が突きつける命題を、是非受け取ってください!**

公演・取材に関するお問い合わせ

劇団、本谷有希子／担当:寺本真美

〒160-0022

東京都新宿区新宿3-8-8新宿OTビル7F (株)ヴィレッヂ

tel:03-5361-3031 fax:03-5361-3032

gekidan@motoyayukiko.com www.motoyayukiko.com

劇団、本谷有希子 第15回公演

『 甘え 』

【作・演出】 本谷有希子

【出演】

小池栄子 水橋研二 安藤玉恵 広岡由里子 大河内 浩

【場所・日程】 青山円形劇場 東京都渋谷区神宮前5-53-1
2010年5月10日(月)～6月6日(日) 全32ステージ

	^{5/} 10 (月)	11 (火)	12 (水)	13 (木)	14 (金)	15 (土)	16 (日)	17 (月)	18 (火)	19 (水)	20 (木)	21 (金)	22 (土)	23 (日)
14:00					休	●	●			●		休	●	●
19:00	●	●	●	●	演	●		●	●	●	●	演	●	
	24 (月)	25 (火)	26 (水)	27 (木)	28 (金)	29 (土)	30 (日)	31 (月)	^{6/} 1 (火)	2 (水)	3 (木)	4 (金)	5 (土)	6 (日)
14:00			●		休	●	●		●	休	●		●	●
19:00	●	●	●	●	演	●		●	●	演	●	●	●	

※5/26(水)公演は収録のため客席にカメラが入る予定です。予めご了承ください。

【チケット】

2010年4月3日(土)前売開始 料金:6,000円(全席指定・税込) ※未就学児の入場不可

【チケット取扱】

○ イープラス <http://eplus.jp/y-motoya/> (パソコン・携帯電話)

○ チケットぴあ 【発売日特電】0570-02-9910 【4/3以降】0570-02-9999(Pコード 402-779)
<http://t.pia.jp/>

○ ローソンチケット 【発売日特電(18時まで)】0570-084-064 【18時以降】0570-084-003(Lコード 33400)
<http://l-tike.com/motoya/> (パソコン・携帯電話)

○ 劇団、本谷有希子WEBSITE www.motoyayukiko.com

【スタッフ】

美術:中根聡子/照明:小川幾雄/音楽:渡邊琢磨/音響:藤森直樹(Sound Busters)/衣裳:畑 久美子

ヘアメイク:二宮ミハル/演出助手:相田剛志/舞台監督:宇野圭一+至福団

宣伝美術:新上ヒロシ+上野友美(ナルティス)/宣伝写真:湊 忠之/宣伝ヘアメイク:二宮ミハル、奥野展子

宣伝スタイリスト:澤田石和寛/衣裳協力:TADASHI SHOJI/WEB製作:ACTZERO

票券:脇本好美/当日運営:宍戸 円/制作助手:嶋口春香、杉田香奈恵/制作:寺本真美

協力:青山円形劇場 企画・製作:ヴィレッヂ・劇団、本谷有希子

■ お問い合わせ ■

ヴィレッヂ 03-5361-3027 (平日12時～19時) gekidan@motoyayukiko.com

『甘え』あらすじ

父と二人で暮らしている。母に逃げられ、寂しさに押し潰されそうな父は、夜毎私にすがりつく。

ある日、すぐに男の子にやらせてしまう心の優しい友達が泣いていて、私は慰めたくてこう言った。

「ねえ、夜這いって文化が、なんでなくなったか知ってる？」。

その子が顔をやっと上げてくれたので、私は一生懸命、話してあげた。いろいろと。

考え方によっては、あなたのほうがずっときれいなんだよ、と。

その子は「きれいななんて言われたの初めて」と嬉しそうに笑ってくれた。

その笑顔を見て、やっぱり私は実行している、と思ったんだ。

それはとても不道德なことだけど、やっぱり実行しなきゃいけない、と思ったんだ。

本谷有希子とは？

1979年、石川県出身。劇団、本谷有希子主宰。高校卒業後、大人計画『ふくすけ』、宮沢章夫監修『alt4』、ヴィレッジプロデュース『1989』に出演。庵野秀明監督のアニメ『彼氏彼女の事情』に沢田亜弥役の声優として参加。

00年9月、劇団、本谷有希子を旗揚げ。主宰として作・演出を手掛ける。07年、『遭難、』で第10回鶴屋南北戯曲賞を最年少で受賞。09年には『幸せ最高ありがとうマジで！』で第53回岸田國土戯曲賞を受賞した。また、小説家としても活動し、『腑抜けども、悲しみの愛を見せろ』、戯曲『遭難、』（講談社）が三島賞候補、『生きてるだけで、愛。』（新潮社）、『あの子の考えることは変』（講談社）が芥川賞候補にノミネート。映画『腑抜けども、悲しみの愛を見せろ』は07年にカンヌ国際映画祭批評家週間に正式出品された。2010年秋には2本目となる原作映画化『乱暴と待機』の公開をひかえている。05年には1年間、ニッポン放送・オールナイトニッポンの金曜パーソナリティも務めた。ジャンルにとらわれず幅広く活動中。

【連載中】

週刊モーニング『かみにえともじ』（講談社）

ダ・ヴィンチ『みんなごめん』（メディアファクトリー）

日経エンタテインメント！『本谷国際映画祭』（日経BP社）

劇団、本谷有希子とは？

00年9月、本谷有希子を主宰として旗揚げ。専属の俳優を持たない「プロデュース・ユニット」として活動を開始する。自意識に絡め取られた妄想過多な人間を主人公に、独特の劇世界を展開する。07年、『遭難、』で第10回鶴屋南北戯曲賞を最年少で受賞。09年には『幸せ最高ありがとうマジで！』で第53回岸田國土戯曲賞を受賞した。本谷特有の「価値観」で切り出される切実で濃密な物語で、幅広い観客層にアピールしている。